

二十一世紀の社会は、「情報技術の進展」、「超高齢社会の到来と人口の減少」、「資源循環型社会の形成と地球環境の変化」などの著しい変化が予想されます。この変化は、あらゆる分野に影響を与え、私たちの暮らしや価値観を大きく変えていくことでしょう。新しい世紀には、このような社会の変革に対応し、四日市を一層魅力あるまちにしていく市政運営を図る必要があります。そこで今号では、二期目に向けて十二月市議会で行った市長の所信表明をもとに、今後の市政の方向をご紹介します。

「自立・自活のまちづくり」に向けて

進めてきた

「情報公開」と「行革」

四年前の市長就任以来、社会の変化に対応し、多様な市民ニーズにきめ細かく応えるために、「市民が主役のまちづくり」を基本的な理念として、積極的に情報公開や行政改革に取り組みできました。今後、政策形成段階における情報公開や行政評価システムの導入などを図り、市民が主役として参加できるまちづくりを進めていきます。

取り組むべき4つの重点課題

新世紀を迎え、これから市が取り組むべき重点課題として以下の四つを掲げ、その実現に向けて積極的に取り組んでいきます。

市民が豊かな情報社会を享受できること

情報社会に対応するため、市においても情報技術を活用し、一層充実した行政サービスを実現していかなければなりません。そのため、住民基本台帳ネットワークシステム(全国どこからでも住民票の写しの交付や転出届の処理が可能なシステム)の構築、証明書の自動交付システムや電子申請システムなどの実用化を目指します。そして、地域や年齢を超えて、すべての市民が豊かな情報技術を享受できる社会の実現を目指します。

市民が安全に安心して暮らせること

市民の生命や財産にかかわる安全の確保は最優先課題です。そのため、災害対策として、公



共下水道の雨水対策事業や都市下水路整備、河川整備などによる常習浸水地域への対策を進めるとともに、防災マニュアルの策定、公共施設や橋の耐震化を進めます。また、環境対策として、北部清掃工場のダイオキシン対策や合併処理浄化槽の整備促進などを図ります。

一方、市民が安心して日常生活を送ることができるよう、整備も必要です。保育所の整備、休日保育や長時間保育など保



保育サービスの拡充などで、子育てを支援

育サービスを拡充し、子育て世代を支援するとともに、小・中学校の階段昇降機整備や道路の段差解消、低床バスの導入促進などにより、バリアフリーのまちづくりを進めます。

また、介護保険サービスの利用向上、在宅高齢者の生活支援、高齢者や障害者の社会活動や就労促進などに努めます。

教育の充実と自主・自立した市民活動が展開されること

現在、いじめや不登校、少年犯罪などが大きな社会問題となっており、学校と家庭、地域との連携がより一層重要になってきています。そのため、生徒指導対策や教育相談事業を推進します。また、国際社会に対応した人材育成のため、英語指導を充実させるとともに、情報社会に対応するため、一人一台で学習できるパソコン配備などを図ります。さらに、生涯学習や市民スポーツの振興にも努めます。



生涯学習を振興

市民の価値観が多様化する中、行政だけでは十分に対応できない分野も生じています。そこで、まちづくりを担う市民活動を幅広く支援したり、行政との協働事業を推進したりすることで市民活動が円滑に行えるようにします。

市民が生きがいを持って働ける豊かな産業があること

産業構造が大きく変化している中で、既存産業の設備投資や新規産業の誘致を図る奨励金制

度を継続させるとともに、市内の人材や技術の集積を活用して、産業の活性化を図ります。

中心市街地においては、既存の施設などを活用して、にぎわいの創出や新規事業への支援などを行い活性化を進めます。さらに、居住人口を増やすために中高層マンションの建設などの再開発事業を促進します。



新規産業を誘致(鈴鹿山麓リサーチパーク)

便利で快適な暮らしに向けて都市基盤を整備

四つの重点課題の推進とともに、市民生活の快適性、利便性を高めるための都市基盤整備も

大切です。港湾については、大型コンテナ船に対応した岸壁、臨港道路・霞4号幹線などの整備を促進するとともに、中部国際空港への海上アクセス拠点(千歳地区)の実現に向け、検討を進めます。

公共交通網については、赤堀山城線、阿倉川西富田線、堀木日永線の三路線の重点区間の早期整備や主要路線の交差点改良に努めます。また、近鉄富田駅などの鉄道駅周辺の整備により、公共交通機関の利用促進を図ります。

住環境については、公園、緑地、水辺空間の整備や里山などの保全によって、自然環境に調和した快適なまちづくりを進めます。



霞ヶ浦地区の北ふ頭(写真左側)に岸壁を整備

中部圏の中核的な都市として

本市は、特定重要港湾四日市港を有するとともに、広い平野部や豊かな丘陵地があり、石油化学コンビナートや地場産業など多くの産業が立地するといった恵まれた条件を備えています。

さらに、第二号神高速道路、東海環状自動車道、中部国際空港など、国家的なプロジェクトが計画されており、発展の可能性がますます高まっています。このような状況を生かし、市は中部圏の中核的な都市としてまちづくりを進めてい

きたいと思えます。市民主体のまちづくりを行うために、都市制度としての「中核市」を目指し、その要件である人口三十万人に向けて、市町村合併も視野に入れて検討を行います。

本市を取り巻く情勢は、依然として厳しいものがありますが、四日市市が二十一世紀に活力ある都市として輝き、発展するよう、市民のみならず協力を得ながら市政運営を進めていきます。